

1日、ヤヌコーヴィチ大統領のブリュッセル訪問
2日、リトヴィン最高会議議長は与党連合の不在を確認
3日、ティモシェンコ内閣の不信任決議可決
5日、ヤヌコーヴィチ大統領のロシア訪問

A. 主な動き

1. 内政

与党連合

・1日、ティモシェンコ首相は、リトヴィン最高会議議長には与党連合の不在を確認する権利がない旨発言。
・1日、マルティネンコNUNS代表は、NUNSの会合においてティモシェンコ首相に辞任を提案・NUNSから首相候補を擁立する旨決定したと明らかにし、右が実現しない場合には地域党との交渉に臨む用意があると発言。
・1日、I. キリレンコBYT会派代表は、NUNSの60名以上の議員が与党連合維持に賛成し、首相就任を支持する候補者が擁立された場合、NUNSからの首相候補を支持する可能性がある旨発言。
・2日、BYTはザジルコ議員、カプリエンコ議員及びオメリチエンコ議員のBYT会派除外決定を破棄。
・2日、リトヴィン最高会議議長は、期日までに所定の文書が提出されなかったとして、与党連合の不在を宣言。
・2日、ティモシェンコ首相は、リトヴィン最高会議議長による与党連合解散は違法と主張。
・3日、アザーロフ地域党副代表は、(与党連合結成)交渉は集中的に進められており、近日中にも交渉が妥結すると発言。
・3日、ステツキフNUNS議員は、二週間以内に「最高会議の規則」に関する法律が改正され、地域党、ブロック「リトヴィン」、共産党及び無会派議員の与党連合が結成されると予測。
・3日、ウリヤンチェンコ政党「我々のウクライナ」評議会代表(注: ユーシチェンコ前大統領が代表を務めるNUNS内政党)は、ユーシチェンコ前大統領が首相に就任するという条件で与党連合に参加する用意があると発言。これに対し会派「国民自衛」(注: NUNS内会派)は、ユーシチェンコ前大統領の首相就任を支持しないと反論。
・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、各会派代表を集めた会合で与党連合結成に関し協議を行い、その中で多数派(注: 会派によらない個別議員の集合を意図したものと推測される)による与党連合、地域党とNUNSによる与党連合及び議会解散・期限前議会総選挙の3つのヴァリエーションを提示。
・4日、サスBYT議員は、個別議員が与党連合に参加できるよう最高会議の規則に関する法律が改正された場合、憲法

裁判所に訴える意向を表明。またソボレフBYT会派副代表は、与党連合の結成方法を変更するのは、合憲的な手段で与党連合を結成するには票が足りないことをヤヌコーヴィチとその周囲が認識しているためと非難。

・5日、グリムチャクNUNS議員は、NUNSのうち25名は与党連合結成合意に署名する用意がある旨発言。これに対しマルティネンコNUNS会派代表は、右は会派の分裂を目的と目論む煽動と非難。

・5日、カテリンチュークNUNS議員は、キエフ地区行政裁判所に対し、リトヴィン最高会議議長による与党連合不在の認定を違憲・違法と認め、法的効力を否定するよう要請。

内閣不信任

・1日、ティモシェンコ首相は、最高会議が翌2日に内閣不信任決議案を審議するよう要求。

・1日、最高会議調整評議会は、3日の最高会議本会議での内閣不信任案審議を決定。

・2日、ティモシェンコ首相は、最高会議で内閣不信任案が可決された場合には即座に職務から退き、政府の活動はヤヌコーヴィチ大統領の責任になると発言。

・3日、内閣不信任案が可決。地域党172名、ブロック「リトヴィン」19名、共産党27名、BYT7名、NUNS15名及び無会派議員3名の243名が賛成。

・3日、罷免されたティモシェンコ首相は休暇の取得を発表し、首相代行にトルチノフ第一副首相を指名。ソボレフBYT会派副代表は、BYTから選出された閣僚はティモシェンコ首相と同様に休暇の取得を決定したと発表。

・4日、閣僚会議は、次期内閣組閣までトルチノフ第一副首相が首相代行を務める旨発表。

人事

・4日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ルカシ議員を大統領府第一副長官・憲法裁判所大統領代表に任命。

・5日、リトヴィン最高会議議長は、翌週にもアザーロフ議員の率いる新政府が誕生すると発言。

・5日、ゲルマン大統領府副長官は、セミノーゼンコ科学アカデミー会員が入閣する可能性がある旨発言。その他スラウタ議員、ポイコ議員、コザク議員、キナフ元首相の閣僚就任、クリューエフ議員の第一副首相、コレースニコフ議員のEURO2012組織担当副首相就任が報道。

2. 経済

マクロ経済

- ・1日、ウクライナの直接対外債務は前月比0.7%減の149億9020万ドル、直接国内債務は1.2%増のおよそ115億2240万ドル。
- ・1日、2009年度のGDPは前年比15%の減少と国家統計委員会が発表。名目GDPは9125億6300万グリブナ。
- ・4日、2月末時点での中央銀行の外貨及び金の準備高は前月末比4.5%減の241億4810万ドルと発表。

金融・財政

- ・3日、シュミロ中央銀行理事は、通常のマクロ経済政策が導入されればグリブナの価値が上がる可能性が高い、との見方を提示。なお、中央銀行は2月末及び3月初めにドル買い介入を実施。
- ・4日、ヤヌコーヴィチ大統領は2010年度予算の承認、IMFとの協力、企業の税負担減などの税改革を経済分野における重要な仕事と考えているとホンチャルク大統領府副長官が発言。
- ・4日、アリエールIMFウクライナ常駐代表はIMFとウクライナの協力再開のための最重要な条件は2010年予算の財政赤字の削減であると発言。また、金融及び銀行部門における安定化措置の必要性にも言及。
- ・4日、閣僚会議はIMF、世界銀行、欧州委員会に対して、閣僚会議及び中央銀行の2006年から2009年間の活動に対する独立した国際監査を実施するように依頼。

鉱工業

- ・2日、ノヴィツキー産業政策相は2010年度の鉄鋼生産高が前年比5.86%増の3150万トンかそれ以上となるとの予想を発表。なお、2009年度の鉄鋼生産高は2008年比17.4%減の2975万7千トン。
- ・3日、2010年1-2月期における鉄鋼生産量は前年同期比12.2%増の凡そ505万トンと閣僚会議が発表。

ガス問題

- ・1日、閣僚会議は国家電気規制委員会に対し、国民、企業等への天然ガス代を値上げしないよう提言。
- ・1日、ティモシェンコ首相は、リョーヴァチキン大統領府長官が幹部を務める「ロスウクルエネルギー」社はウクライナのガス輸送システムを長年に渡り骨抜きにきており、同社のウクライナ市場における活動こそヤヌコーヴィチ大統領が新設した反汚職国家委員会で検討されるべきと声明。
- ・1日、ブリュッセル訪問中のヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナがガス国内市場を創出する必要があり、そのための法案を提出する用意があると発言。
- ・2日、ミレル露ガスプロム社長は、昨年(ウクライナ・露間で)締結された契約が透明なものであり、十分満足している、「ノルド・ストリーム」及び「サウス・ストリーム」計画が変更になることはないと言。
- ・2日、ドゥピナ・ナフトガス社長は辞表を提出。
- ・3日、ブローダン燃料エネルギー相は、2日に閣僚会議が

ドゥピナ社長の解任を決定したと発表。

- ・4日、ナフトガスは露ガスプロムに対する2月分のガス料金支払いを完了したと発表。また同日、クプリヤーノフ・ガスプロム報道官も支払い完了を確認したと発表。
- ・5日、シュマトコ露エネルギー相は、ガスも含めたあらゆる露ウクライナ二国間協力の問題が、組閣中のウクライナ政府の枠組みでメドベージェフ大統領の今年前半のキエフ訪問時に協議することで合意したと発言。

▼2日、EUの欧州近隣政策(ENP)支援の決定

- ・EUはウクライナに対し、2011~13年に経済及び司法改革、連合協定署名に向けた準備費用として4億7010万ユーロを資金供与(第2トランシェ)することを決定。支援額は2007~10年の第1トランシェ(4億9400万ユーロ)に比べ2400万ユーロ減少。
- ・第2トランシェの総額は57億ユーロで、ウクライナ以外にもモルドバ(2億7310万ユーロ)、グルジア(1億8030万ユーロ)、アルメニア(1億5730万ユーロ)、アゼルバイジャン(1億2250万ユーロ)。
- ・同予算は気候変動、運輸部門、エネルギー部門、環境保護分野への支援向け。

その他

- ・27日、アキモヴァ大統領府第一副長官は、WTOとの矛盾点等があることから、ウクライナは露・カザフスタン・ベラルーシとの関税同盟に加わる事は無いと発言。また、ウクライナは他のCIS諸国のWTO加盟を支援し、WTOに基づいた関税同盟を設立する、とも発言。
- ・28日、アキモヴァ大統領府第一副長官は年金の最高額と最低額の差を削減する方向で見直す予定であると発言。
- ・1日、ウクルテレコム社はクレディ・スイス・ファースト・ポストン社及びドイチェバンクと4165万6000ドルの返済の3ヶ月繰り延べに合意。
- ・1日、閣僚会議は温室効果ガスの排出を2016年までに15%-20%削減予定とした省エネ経済計画を承認。
- ・2日、ノヴィツキー産業政策相はVAT未還付問題解決策としてVAT国債の発行もありうる、と発言。2月半ばに国家税務当局は未還付のVAT額が200億グリブナとの見積もりを発表。なお、2003年にはVAT未還付問題解決のために19億グリブナを超える5年債券を発効。

3. 外政

- ▼1日、ヤヌコーヴィチ大統領のブリュッセル訪問
- ・ブゼクEU議会議長と会談し、エネルギー安全保障、連合協定署名交渉の進捗、査証免除につき協議。
- ・ブゼク議長は、ヤヌコーヴィチ大統領が最初の訪問先としてブリュッセルを選んだことを高く評価、ウクライナとIMFとの協力再開の必要性、及び選挙法改正の必要性を指摘。
- ・パローゾ欧州委員長と会談したヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナにとり欧州統合は、外政及び社会改革実行戦略の優先事項であり、FTAを含む連合協定に向けた協議をEUと継続し、今年中に無査証渡航のロードマップを作成する

ことで合意したと発言。パローゾ欧州委員長は、ウクライナの国際通貨基金(IMF)との協力及びガス分野での改革の必要性を強調。

・ポロシェンコ外相は、EU加盟及び無査証渡航制度導入に対するウクライナの立場に関する問題を共通の課題として全ての政治勢力が団結すべきであると発言。

・ヤヌコーヴィチ大統領はBBCへのインタビューで、今年中に査証免除及びFTAが実現することへの期待感を表明。

▼2日、ズラポフ露大使がヤヌコーヴィチ大統領に信任状捧呈

・ズラポフ大使はロシア語でヤヌコーヴィチ大統領に挨拶した後、ヤヌコーヴィチ大統領訪露につき協議。

▼2日、ポロシェンコ外相のハンガリー訪問

・ヴィシエグラド・グループ(チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア)、バルト海沿岸諸国、東方パートナーシップ加盟国、スペイン、ベルギーの外相及びEU幹部との会合に出席。

・査証免除に向けたロードマップ策定開始で合意。

・ポロシェンコ外相はライチャーク・スロバキア外相と個別会談し、複数の分野での二国間協力強化及びハイレベル会合の日程につき詳しく協議。ウクライナ国民に対する長期査証無料化及び4月にスロバキア外相がキエフを訪問することで合意。

・ポロシェンコ外相はフィーレEU拡大・欧州近隣政策担当委員と会談し、無査証渡航制度に向けた「ロードマップ」策定、FTAを含む連合協定締結のための協議プロセス活性化といったヤヌコーヴィチ大統領によるブリュッセル訪問合意事項の実行に関わる問題を協議。フィーレ委員はヤヌコーヴィチ大統領のブリュッセル訪問の成果を高く評価。

▼3日、ウクライナ・ベラルーシ電話首脳会談

・ヤヌコーヴィチ大統領はルカシェンコ・ベラルーシ大統領との電話会談で、ブリュッセル訪問につき報告し、モスクワ訪問の予定につき予告。近日中に二国間会談を行うことで合意。

▼5日、ヤヌコーヴィチ大統領のロシア訪問

・ヤヌコーヴィチ大統領は、公約であるロシア語の第2国語化に向けあらゆる必要な法律を採択し、極めて近い将来に解決することを目指すと発言。

・ヤヌコーヴィチ大統領は、バンデラ及びシュヘーヴィチにウクライナ英雄の称号を授与する大統領令は法的政治的手続きを経て5月9日までの解決を目指すとして発言。

・メドベージェフ大統領は、両国が極めて短い期間で経済、政治、安全保障面での協力調整に向けた決定的な第一歩を踏み出したと発言。

・メドベージェフ大統領は、ロシアがG8、G20及び国際金融機関も含めた様々な場においてウクライナの利益を支援する用意があると発言。

・メドベージェフ大統領は、ガス分野での協力は両国政府及

び諸大臣に協議を任せることで合意し、ウクライナ領内でのエネルギー及びインフラ関連巨大案件の実現が、新たな長期投資による実現も含め、両国の利益に叶っていると確信していると発言。

・プーチン露首相はウクライナに露、カザフスタン、ベラルーシとの関税同盟に加盟するようヤヌコーヴィチ大統領に呼びかけ。これに対しコジャーラ地域党議員は、ウクライナはWTO非加盟国との関税同盟に加盟することが出来ないと発言。

4 . 防衛

黒海艦隊駐留問題関連

・5日、ヤヌコーヴィチ大統領は、メドベージェフ露大統領との会談後の記者会見において、露黒海艦隊駐留問題につき近いうちにロシア・ウクライナ両国にとって利益を見出せる方法で解決すると発言。

NATO

・2日、国防省報道官は、国防省はNATO即応部隊にウクライナ軍を派遣するための法案を立案し、現在他省庁で手続きを実施中であると発表。

・3日、ラスムセンNATO事務総長は、ウクライナにおける大統領の交代が2008年のブカレスト・サミットにおいて言明されたウクライナのNATO加盟可能性に関するNATOの立場に影響を及ぼさないと発言するとともに、ヤヌコーヴィチ新大統領に会うことを楽しみにしているとコメント。

・4日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナはNATOに加盟することを計画していないと発言するとともに、ウクライナとNATOとの関係はウクライナとロシアの関係ほど深くはないとコメント。

ウクライナの武器輸出

・27日、ウクライナ産業政策省防衛部門局は、2009年におけるウクライナの防衛産業の生産高は58%増加し、ウクライナが世界第6位の武器輸出大国になる可能性があるとして発表。

その他

・4日、関係筋は、インド空軍のアントノフ32輸送機5機が修理及び近代化改修のためキエフに到着したと発言。昨年7月、インド空軍とウクルスベツエクスポート社の子会社であるスペツテクノエクスポート社との間で同輸送機110機の修理及び近代化改修のため4億ドルの契約が署名されていた。

5 . 二国間関係

4日、平成21年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「キエフ市におけるチェルノブイリ被害者及び社会的弱者のための医療環境改善計画」引渡式

・伊澤大使は戦争と全体主義の被害者のための国際医療センターにて行われた本件引渡式に出席。本件では同センターに対して生化学自動分析装置、血液自動分析装置等の医療機材総額96,749米ドルを供与。

B . その他の動き

2 / 27 (土)

・露黒海艦隊報道官は、露黒海艦隊艦船が模擬強襲上陸、対潜水艦及び防空作戦の訓練内容を含む演習に参加していると発言。

3 / 2 (火)

・国鉄「ウクルザリズニッチャ」社は5月30日より試験的に男女別のコンパートメントを導入予定と発表。

(了)